



令和7年度北海道旭川盲学校第1回学校運営協議会を7月10日（木）に開催しました。

- (1) 令和7年度の学校経営方針及びグランドデザインについて
- (2) 本校の教育活動について
- (3) 授業参観
- (4) 今後のコミュニティ・スクールについて（熟議）

の内容で開催されました。水上委員長様から挨拶を頂いたあと校長からの説明を行いました。その後、委員の皆様と一緒に熟議を行い、今後のコミュニティ・スクールについて子ども、保護者、地域の方と一緒にできる教育活動について話し合われました。



学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの学びや体験活動の充実を目指すための熟議を行いました。今年度も実現可能な取組を行うことを目標にしました。



<熟議の内容>

- ・医療的ケア児支援法により旭川市でもサポートをするための体制作りが行われている。旭盲にも医療的ケアの必要な子供さんが二人在籍しているとのことなので、その子供たちを支えるという意味で、地域と連携してみても良いのではないかと。また、札幌の視覚支援学校だけでなく、鷹栖や東川の特別支援学校に進む重複障害の子供たちも増えていると聞くので、学校間連携を強めていくことも大切ではないかと。
- ・点字プリンターや昨年貸し出したプレクストークは、新発売された当初は需要もあったが最近では需要が減っている。旭盲の子供たちに使用してもらえるのは嬉しい。今後も連携したい。
- ・地域の高専から、弱視生徒に関わる相談が本校にあった。その中で、携帯用拡大読書器の利用を弱視生徒に提案している。点字図書館に行き、どのタイプの読書器が本人に合っているかの相談を受けていただくという意味で本校と連携し、地域で学ぶ子供を支える形の取組が進んでいる。
- ・社会に出てどのように働き周囲と結びつきながら生活しているかについて、同窓生が話をすれば、協力できると思う。
- ・保護者向けの研修で同窓生やその保護者の話を聞くことのできる場があると良い。将来どのように自分の子供が歩いていくのか不安があり、先輩保護者の話も聞いてみたい。
- ・盲学校のことを地域等にいかにか知ってもらい、理解してもらえるかが大切だと思う。そうすることで盲学校への支援の幅が広がると思う。
- ・昨年度の雪像作りで分かったが、旭川に盲学校があることを初めて知ったという声が聞かれた。地域に盲学校を知ってもらい、子供たちを知ってもらえることでバリアが取り払われるのではないかと。子供たちには積極的に校外での活動をさせたい。稲刈りの体験などはどうか。
- ・盲学校の現状や子供たちの様子を積極的に発信していくことが大事だと感じている。また、そのお手伝いができればと思う。後援会として応援したい。
- ・学習発表会への協力と言うことと言えば、手品や変面ができる方が町内にいる。盲学校から協力を依頼していただければ引き受けてくれるのではないかと。
- ・同窓生で楽器の演奏ができる方がいれば学習発表会の場で発表するのはどうか。大正琴の演奏ができる人がいたような気がする。確認は可能である。